

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。  
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。  
 ※文章と図等を組み合わせた作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。  
 ※いずれの場合も、必ず A3 片面1枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは5MB以下としてください。

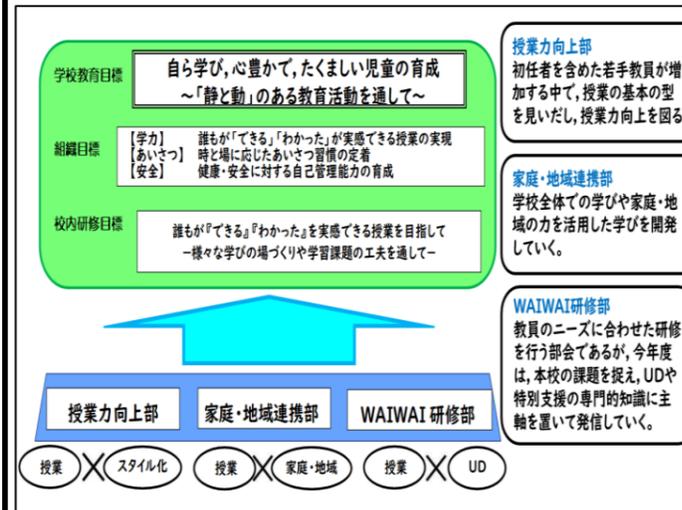
※事務局記入欄

【様式2】

No. D-100

<b>部門名：</b> 校内研修プログラム開発 ・実践部門	<b>エントリー名：</b> 茨城県 かすみがうら市立下稲吉東小学校
<b>活動名：</b> 主体的な中核教員の育成 組織目標と連動した校内研修体制	
<b>解決すべき課題：</b> これまで取り組んできた校内研修の成果と課題について ○ 若手教員育成のための OJT 研修や授業研究の校内研修を行い教員の資質能力の向上を図ってきた。 △ 地域との連携・協働した取組に関心が低い。 △ 校内研修の必要性認識や目指す目標が不明確であった。	
<b>目標・方針：</b> 校内研修の3部会を PDCA サイクルで見直し、地域連携と授業力向上を目指していく ・1年目(令和元年度) 校内研修を組織目標と連動させ、3部会を刷新し活動促進を図る(資料1) ・2年目(令和2年度) カリキュラム・マネジメントを行い地域連携や本校が目指す ESD 教育への動きへ加速。授業スタイル「下東スタイル」の完成 ・3年目(令和3年度) 地域連携と共に行う ESD 教育、「下東スタイル」の定着化	
<b>活動内容：</b> 1年目である本年度は、PDCA サイクルでの研修組織づくりを行い、3部会の活動を促進するため、以下のことに取り組んだ。 ① SWOT 分析(学校の現状分析)、研修時間の定期的な時間の確保 ② 各部会リーダーに主要ミドルリーダーを置き、部会活動の促進を図る ③ 誰もが「できる」「わかった」を実感できる授業スタイルの追求 ④ 様々な学びの場づくりを行うための地域教材の発掘・活用を、校内研修組織を通して、全学年で実施。 ⑤ 特別支援教育に関わる専門的な知識の共有	
<b>活動の成果：</b> 校内研修と組織目標との連動を行うことで、研修の必要性認識が高まり、学校全体を上げての取組となった。 ① SWOT 分析を通して、本校の強みや弱みを客観的に分析し、校内研修の目的や学校で取り組むべき課題が明確になった(資料2)。今後は、研修の振り返りを行い、次年度の改善につなげる。 ② 各部会に主要ミドルリーダーを配置することで、各部会のファシリテーションが円滑になり、部会の目指す目標を達成する動きが加速した。さらに、リーダー、副リーダーには、ベテラン教員、若手教員を組み合わせることで OJT の効果が高まり、若手教員の育成につながった(資料3)。 ③ 授業の基本の流れである「下東スタイル」を「学力向上部」で話し合い作成した(資料4)。本年度は全学年で試行実施し、課題の工夫等に力を入れて授業を行い、授業力向上を図った(資料5)。 ④ 地域教材の発掘・活用を、校内研修組織で行うことで、従来、学年主任の業務であった地域との連絡調整が軽減された。さらに、「家庭・地域連携部」で検討した取組は、総合的な学習の時間を中心とした教科横断的な取組に発展していった(資料6)。 ⑤ 「WAIWAI 研修部」での取組は、特別支援教育の専門的な知識や対応について、全職員へ発信していった。さらに、市教育委員会と連携した研修実施にもつながり、活動の高まりが見られた(資料7)。	
<b>アピールポイント(アイデアや工夫)：</b> ① 学校の内外環境が明確になり、組織目標の達成に向けた学校組織マネジメントが強化される。 ② 主要ミドルリーダーをリーダーとして配置することが、各部会の活動促進につながった。 ③ 「下東スタイル」を取り入れることで、授業力の向上と新任教員を育成することができる。 ④ 家庭・地域との連携コーディネーターを、各学年に配置することで、活動が促進された。 ⑤ 特別支援教育に関わる専門的な知識や対応方法を取り入れ、学校全体の活動へと広がった。	

<資料1>



<資料2>

資料2は、校内研修のPDCAサイクルを詳細に示しています。SWOT分析から目標設定、実施、評価までの流れが図解されています。また、関係者会議や研修会の様子も写真で示されています。

<資料3>



<資料4>



<資料5>



<資料6>



<資料7>

